

- 店舗自動発注数の事前入手など、メーカーへの発注数量決定に関し、可能な限り正確な情報共有に取り組んでいる。

(2) 情報共有の高度化による在庫適正化

Ⅲ.配販

従来型の課題

発注数量決定に関する正確な情報連携が不十分

不確かな情報の連鎖が「欠品」や「滞留在庫」を誘発させている。

- ① 特売情報はリードタイムが短い為、“見込み数量”で発注している。
- ② カット案内が未提示のケースがある。
- ③ 欠品と過剰在庫の両面を抑止する為、独自の需要予測により数量を決定している。



「より良い」Solution

発注数量決定に関し、可能な限り正確な情報共有によるロス削減

A 社様より個店データ提供を受け、“確かなデータを活用”した発注・在庫コントロールを実施

- ① 店舗自動発注数を事前に入手する事で確実なメーカー発注を可能とし、欠品を未然に防いでいる。
- ② フェイス数の増減をチェックした上で発注数量の調整が可能であり、滞留在庫を防いでいる。
- ③ 店頭在庫を活用し、店頭在庫・POS実績・センター在庫を連動させた最適発注を行い、在庫過多・欠品の両面を抑制すべく検証を継続
⇒廃棄ロス・返品削減に繋がっている

【確かなデータの活用によるソリューション】

店舗様

物流センター

